

事後評価結果（平成27年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課

担当課長名：谷村 昌史

事業名	一般国道228号 上磯拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道北斗市東浜 至：北海道北斗市富川	延長	5.4 km		

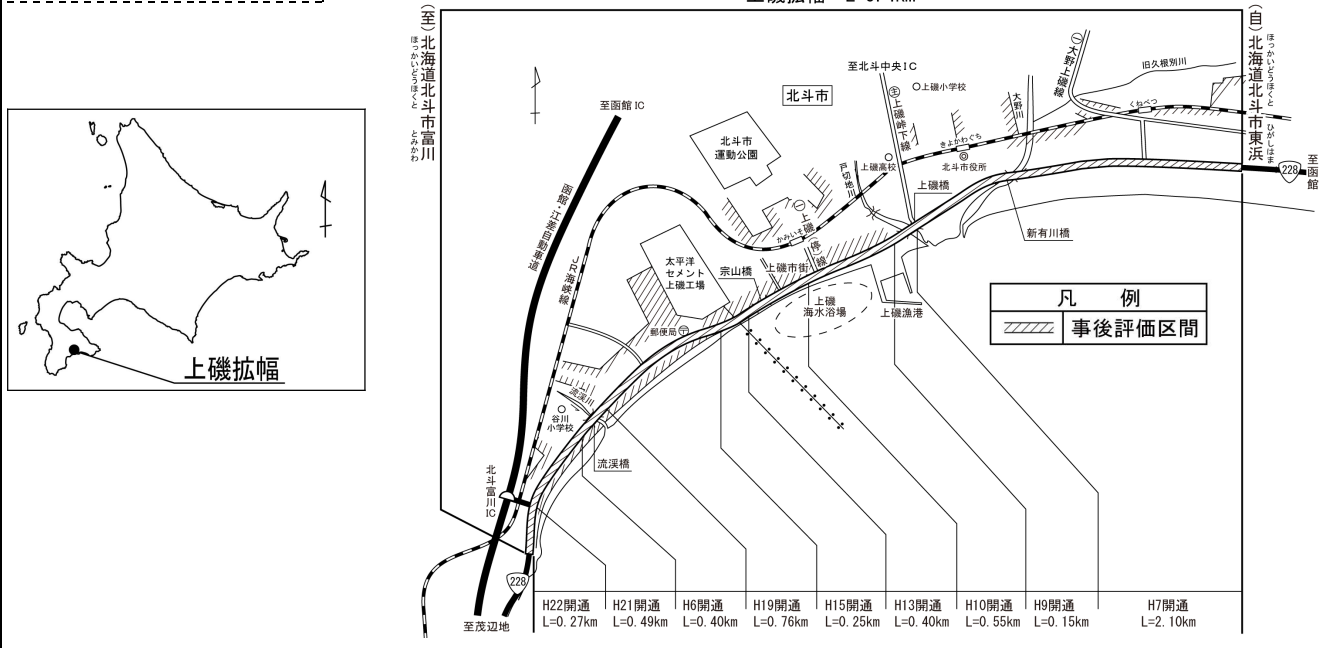
事業概要

国道228号は、函館市を起点とし、江差町に至る延長約151kmの幹線道路である。
このうち上磯拡幅は、北斗市東浜から富川に至る延長約5.4kmの4車線拡幅事業である。

事業の目的・必要性

上磯拡幅は、北斗市街における交通混雑の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした事業である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	S60年度	用地着手	S63年度	供用年	(当初) - / H19年度	変	動	1.2倍
		都市計画決定	S61年度	工事着手	H元年度	(暫定/完成)	(実績) - / H22年度			
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) - / (実質値) - /	169億円 146億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) - / (実質値) - /	169億円 142億円	変	動	1.0倍
	交通量	計画時 (現道228号)	22,299 台/日		実績 (当該路線/函館江差 自動車道)	17,905/3,778 台/日		変	動	97%
旅行速度向上 (開通前現道→当該路線)	30.3 → 35.6 km/h	(開通前年次) H2年	(開通後年次) H22年	交通事故減少 (開通前現道→当該路線)	56.1 → 17.1 件/億台・日	(開通前年次) H3~5年平均値	(開通後年次) H23~25年平均値			
費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	1.6		総費用	221億円	総便益	354億円	基準年		
				(事業費)	221億円	(走行時間短縮便益)	355億円	平成16年		
				(維持管理費)	0億円	(走行経費減少便益)	-3億円			
						(交通事故減少便益)	1億円			
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.4		総費用	296億円	総便益	417億円	基準年		
				(事業費)	289億円	(走行時間短縮便益)	401億円	平成27年		
				(維持管理費)	7.5億円	(走行経費減少便益)	14億円			
						(交通事故減少便益)	0.83億円			
事業遅延によるコスト増	費用増加額		-7.7億円		便益減少額		46.6億円			
事業遅延の理由										

本事業は、昭和60年度に事業化し、平成元年度に工事着手した。
当初、平成19年度の完成を目指していたが、用地取得に時間を要したことにより、事業完了が平成22年度になった。

客観的評価指標に対応する事後評価項目

事業の整備効果

- ①道路交通の安全性向上
 - ・当該道路の整備により、追突事故件数が約3分の1に減少。
 - ・死傷事故率も約7割減少するなど、道路交通の安全性が向上。
- ②交通混雑の緩和
 - ・当該道路の整備により、旅行速度が約2割向上するなど、交通の円滑性が向上。
 - ・右折レーンが設置され、上磯駅前交差点の渋滞が解消。(最大1,100m→0m)
- ③地域の活性化及び利便性向上
 - ・道路交通の利便性が向上したことでDIDDが拡大。
- ④水産品の流通利便性向上
 - ・函館市や函館港等への輸送の円滑性・定時性が高まり、水産品の流通利便性が向上。
 - ・交通の利便性向上による新たな事業の円滑な運営がなされている。
- ⑤路線バスの利便性向上
 - ・ラッシュ時の遅延が解消するなど、バス運行の定時性が向上。
 - ・余裕時間の短縮により時刻表時間が1分短縮するなどバス利用者へのサービスが向上。
 - ・走行の円滑性が向上し、燃費が約12%向上。
- ⑥救急搬送の速達性及び安定性向上
 - ・北斗市から函館市への搬送時間が平均約3割短縮するなど、救急医療サービスが向上。
 - ・一般の車を追い越しやすくなり、搬送時の安全性が向上。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業による環境変化

環境影響評価に対応する項目

環境影響評価の対象外事業である。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域：函館市、北斗市)
 - ・人口は、事業化当時約382.4千人(S60)→開通後319.4千人(H27)となっている。
(事業化当時は国勢調査、開通後は住民基本台帳人口)
 - ・製造品出荷額は、事業化当時約2,847億円(S60)→開通後約2,270億円(H25)となっている。
(工業統計調査)
 - ・卸売小売販売額は、事業化当時約9,996億円(S60)→開通後約6,991億円(H24)となっている。
(事業化当時は商業統計、開通後は経済センサス活動調査)

今後の事後評価及び改善措置の必要性

上磯拡幅の整備により、北斗市街における交通混雑の低減、道路交通の定時性、安全性の向上など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものと考えられる。
なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

同種事業の計画・調査のあり方についての、見直しを必要とする事項は見られなかった。
また、事業評価手法について、見直しの必要性は無いと思われる。

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。